

教員調査（不登校に関する教員対象調査） 調査項目一覧

1 勤務校の学校種を選んでください。

小学校・義務教育学校前期課程
中学校・義務教育学校後期課程
高等学校 全日制
高等学校 定時制
高等学校 通信制
特別支援学校 小学部
特別支援学校 中学部
特別支援学校 高等部

2 あなたの教職経験年数を入力してください。（令和6年4月1日時点）

※記入例 5年目の方は、半角数字で「5」と入力してください。

自由記述（数字）

3 職名を選んでください。

教諭
養護教諭
主幹教諭
副校長・教頭

4 現在の校務分掌について、あてはまるものを全て選んでください。

担任
学年主任（年次主任）
児童指導主任、生徒指導主事
教育相談主任
特別支援教育コーディネーター
教務主任
上記にあてはまるものがない

5 あなたの学校に校内教育支援センターは設置されていますか。

されている
されていない

6 5で「されていない」と回答した方にお聞きします。あなたの学校は、不登校（傾向含む）児童生徒への別室等での対応をしていますか。

している
していない

7 あなたは、これまでの教職経験の中で、不登校児童生徒（不登校傾向を含む）や保護者への指導・支援に関わったことがありますか。

あった

なかった

8 7で「あった」と回答した方にお聞きします。関わった児童生徒が学校を休むようになった（休みがちになっている）きっかけとして特に多いと感じるものは何だと思いますか。3つまで選んでください。

いじめの被害

友達との人間関係

友達以外の学校の児童生徒との人間関係

学校やクラスの雰囲気

先生との関係（先生が怖いなど）

勉強がわからない

宿題が終わらない

将来への不安

部活動等の課外活動

校則やきまり等

入学や進級、転校等による学校やクラスなどの環境の変化

家族との関係

頭痛や腹痛等の身体の不調

生活リズムの乱れ

インターネット（SNS等）やゲーム等の影響

学校に行く理由が見つからない

家族や友達、学校の先生に打ち明けることが難しい悩み

きっかけが何か分からない

その他（※記述回答）

9 7で「あった」と回答した方にお聞きします。不登校（傾向も含む）児童生徒と直接関わって感じた課題について、あてはまるものを全て選んでください。

どのような対応をしたらよいか分からない（一人一人の実情に応じた声かけ、配付物等の渡し方、進路相談、学習支援等）
児童生徒本人の性格や精神状態により、接し方や信頼関係の構築に苦慮する。
児童生徒本人に避けられてしまい、直接会ったり話したりすることができない。
どのタイミングで、どのくらい登校や別室登校を促してよいか分からない。
他の児童生徒と接することを嫌がることによる、校内の動線や居場所の確保
校内へ入ることや教室に行くことを拒む児童生徒に対し、どこまで無理強いしてよいか分からない
保健室や別室利用を本人が望むようにどこまで許容してよいか分からない
評価や成績のつけ方などについて、本人や保護者に理解を得ることが難しい
不登校に対応した経験が乏しい
その他（※記述回答）

10 7で「あった」と回答した方にお聞きします。不登校（傾向も含む）児童生徒の保護者と直接関わって感じた課題について、あてはまるものを全て選んでください。

勤務時間内に保護者への連絡がとれない
勤務時間内に家庭訪問ができない
家庭への連絡の頻度や方法が適しているか分からない
保護者には会えても、児童生徒本人と会えず、本人の気持ちを直接聞くことができない
保護者の希望が児童生徒の希望と合致しているか分からないため、児童生徒にとって適切な支援になっているか分からない
学校の対応について、保護者の理解と協力を得ること
保護者が子どもへの関心が薄いこと
保護者からの学校では対応が困難な要求への対応
保護者からの連絡がない、もしくは連絡を断られて対応に困る
特にな
よく分からない
その他（自由記述）

11 7で「あった」と回答した方にお聞きします。校内教育支援センターや別室等における課題について、あてはまるものを全て選んでください。（設置していない場合は、設置することを想定して御回答ください。）

校内教育支援センターや別室等の設置について、教職員の理解を得ること

専用の部屋や備品の確保

担当する教職員の配置や確保

利用開始するための判断や手続き

個に応じた学習教材の準備

個に応じた学習指導・支援

個に応じた児童生徒指導・支援

利用希望者の多さへの対応

校内教育支援センターや別室等から教室へ戻る判断

校内教育支援センターや別室等の利用を希望しない児童生徒への対応

家から出られない児童生徒への対応

特になし

よく分からない

その他（自由記述）

12 7で「あった」と回答した方にお聞きします。スクールカウンセラーの活用に関する課題について、あてはまるものを全て選んでください。

- どのような専門性があるかよく分からない
- どのような場面でスクールカウンセラーにつなぐとよいのか分からない
- 児童生徒・保護者・教職員が相談を行いたい時とスクールカウンセラーの来校日が合わない
- スクールカウンセラーの来校日が少ないため、相談の計画がしにくい。
- スクールカウンセラーから有益なアドバイスが得られない
- 利用希望者の多さに対応できない
- 相談を促しても本人や保護者が希望しない
- スクールカウンセラーと合わない
- スクールカウンセラーが教職員の相談に対応する時間がとれない
- 家から出られない児童生徒の利用が難しい
- 特にない
- よく分からない
- その他（自由記述）

13 7で「あった」と回答した方にお聞きします。スクールソーシャルワーカーの活用に関する課題について、あてはまるものを全て選んでください。

- どのような専門性があるかよく分からない
- どのような場面でスクールソーシャルワーカーにつなぐとよいのか分からない
- 児童生徒・保護者・教職員が相談を行いたい時とスクールソーシャルワーカーの来校日と合わない
- スクールソーシャルワーカーの来校日が少ないため、相談の計画がしにくい
- スクールソーシャルワーカーから有益なアドバイスが得られない
- 利用希望者の多さに対応できない
- 相談を促しても本人や保護者が希望しない
- スクールソーシャルワーカーと合わない
- スクールソーシャルワーカーが教職員の相談に対応する時間がとれない
- 家から出られない児童生徒の利用が難しい
- 特にない
- よく分からない
- その他（自由記述）

14 (市町立学校の教員のみ回答) 7で「あった」と回答した方にお聞きします。市町の教育支援センター（教育委員会が設置する、不登校の児童生徒に対して学習支援や相談等を実施する施設）の活用に関する課題について、あてはまるものを全て選んでください。

利用開始するための判断や手続き

市町の教育支援センターにおいて学習した内容の評価の仕方

市町の教育支援センター利用日の出席扱いの手続き

市町の教育支援センター職員との連絡・調整

保護者による市町の教育支援センターへの送迎が難しく、思うように利用できない

どのようなタイミングで保護者に教育支援センターを紹介したらよいか分からない

相談を促しても本人や保護者が希望しない

家から出られない児童生徒の利用が難しい

教育支援センターの機能がよく分からない

特にない

よく分からない

その他（自由記述）

15 (県立学校の教員のみ回答) 7で「あった」と回答した方にお聞きします。教育支援センター（教育委員会が設置する不登校の児童生徒に対して学習支援や相談等を実施する施設）の課題について、あてはまるものを全て選んでください。

県立学校の児童生徒の利用を前提とした教育支援センターがない

教育支援センターの機能がよく分からない

特にない

よく分からない

その他（自由記述）

16 7で「あった」と回答した方にお聞きします。民間の支援機関（フリースクール、居場所等）との連携に関する課題について、あてはまるものを全て選んでください。

どのような民間の機関がどこにあるか分からない（民間の機関ごとの機能の違いが分からない）
どのようなタイミングで民間の支援機関を紹介したらよいか分からない
連携を開始するための手続き（情報共有、対応方針の検討、個別対応の共有）に時間がかかる
出席扱いの判断
個々の児童生徒の学習内容や活動内容の把握
特にな
よく分からない
その他（自由記述）

17 7で「あった」と回答した方にお聞きします。福祉の関係機関（児童相談所、精神保健福祉センター、地域包括支援センター等）との連携に関する課題について、あてはまるものを全て選んでください。

どのような福祉の関係機関がどこにあるか分からない（機関ごとの機能の違いが分からない）
連携を開始するための手続き（情報共有、対応方針の検討、個別対応の共有）に時間がかかる
出席扱いの判断
個々の児童生徒の学習内容や活動内容の把握
家庭問題に関する関係機関を保護者にどのように紹介したらよいか分からないこと
特にな
よく分からない
その他（自由記述）

18 7で「あった」と回答した方にお聞きします。オンラインを活用した支援の課題について、あてはまるものを全て選んでください。

オンラインを活用した学習支援の準備時間の確保
機材の整備が不十分
オンラインを活用するためのノウハウがない
配信するための回線が弱い
通常の対面授業を実施しながらオンライン配信することが難しい（教室に複数の教員がいない等による）
授業のオンライン配信を不登校児童生徒が自宅で集中して授業を受けることが難しい
不登校児童生徒の家庭におけるインターネット環境がない、または、不十分
特にな
よく分からない
その他（自由記述）

児童生徒や保護者へのきめ細かな対応や不登校の未然防止や早期対応等を充実するために、課題と思うことについてあてはまるものを全て選んでください。

19 未然防止…全ての児童生徒にとって学校が安心・安全な居場所となるための取組（全ての児童生徒が学校に来ることを楽しいと感じて学校を休みたいと思わせないよう日々の学校生活を充実させる、どの児童生徒も落ち着ける居場所をつくる、全ての児童生徒が活躍できる場面をつくる 等）

早期対応…不登校の「兆候」がみられる児童生徒の早期対応（児童生徒の心の小さなS O Sを早期に発見して相談につなげる、欠席が数日の段階から児童生徒の状況に応じた働きかけを行う 等）

持ち時間数や部活の指導、その他の業務が多く、児童生徒にじっくり対応する時間の余裕がない

多忙で児童生徒の小さな変化に気付く心の余裕がない

児童生徒同士がより良い人間関係を築けるような授業を行うことが難しい（教育内容過多等により）

児童生徒同士がより良い人間関係を築くための指導や支援の方法がわからない

児童生徒の問題が、SNS等におけるものなど複雑化しており、早期発見や対応が難しい

不登校の未然防止、早期対応等に関する知識が教職員に乏しい

どの児童生徒にとっても分かりやすい授業づくり

児童生徒が安心して過ごせる居場所づくり

児童生徒の悩み等を早期発見するための仕組みづくり

児童生徒の悩み等への早期対応に向けた教職員同士、家庭、関係機関等との連携・協働

教職員間で考え方や認識に温度差があること

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携・協働

管理職の理解を得ること

特にない

よく分からない

その他（自由記述）

20 校内体制の課題について、あてはまるものを全て選んでください。

不登校児童生徒の学習評価（通知表や指導要録への記載、履修認定、単位認定等）

配慮を要する児童生徒への関係教職員の共通理解及び適切な対応

気になる児童生徒について同僚への相談のしやすさ

ケース会議（児童生徒への支援の目標や方向性、具体的な対応策などを検討）の有効活用

児童生徒や保護者へのきめ細かな対応をするための時間の確保

日頃からの教職員間で相談しやすい人間関係など同僚性の構築

児童生徒の問題を特定の教職員の責任にせず、複数の教職員が課題の解決を一緒に考え、助け合えるチーム支援

管理職と教職員とのコミュニケーション

情報交換会（生徒指導連絡会、教育相談部会など）の開催

特にない

よく分からない

その他（自由記述）

21 児童生徒が相談しやすい環境づくりに関して課題と思うことについて、あてはまるものを全て選んでください。

- 児童生徒が相談したい時に教職員に相談できない（教職員が多忙 等）
- 児童生徒が相談したい時にスクールカウンセラーに相談できない（スクールカウンセラーの来校日が少ない等）
- 教育相談（面談）の際に、児童生徒が担任以外の教員との相談を希望できない
- 教職員が児童生徒の声をしっかり聴き入れる意識づくりが不足している
- 教職員の相談に関するスキルや力量が不十分
- 児童生徒が自分の悩みを訴えやすくする工夫が不足している
- 配慮を要する児童生徒への理解および情報共有が不足し、意識的な声掛けが教職員全体で不足している
- 児童生徒が相談しやすい場所や部屋の設定がない、または相談場所の室内環境の整備が不十分
- 特になし
- よく分からない
- その他（自由記述）

22 あなたの学校では、ケース会議（児童生徒への支援の目標や方向性、具体的な対応策などを検討）を開催していますか。

- 週 1 回程度
- 2 週間に 1 回程度
- 月 1 回程度
- 学期に 1 回程度
- 必要がある時に随時
- 実施していない
- 実施しているかどうか分からない
- その他（自由記述）

23 あなたの学校では、不登校の児童生徒や保護者に対して次の情報提供を実施していますか。

- スクールカウンセラーへの相談方法や相談できる内容
- スクールソーシャルワーカーへの相談方法や相談できる内容
- 市町の教育支援センターの利用方法
- 市町が設置する福祉の関係機関（保健センター等）の情報
- 県が設置する福祉の関係機関（児童相談所、健康福祉センター等）の情報
- 栃木県総合教育センターの教育相談部
- 民間の支援機関（フリースクール）の情報
- 民間の支援機関（居場所）の情報
- 民間の支援機関（親の会）の情報
- 医療機関の情報
- 実施していない
- 実施しているかどうか分からない
- その他（自由記述）

24 あなたの学校では、不登校児童生徒及び保護者の対応について、次の関係機関等との連携を実施していますか。

- スクールカウンセラー
- スクールソーシャルワーカー
- 市町の教育支援センター
- 市町教育委員会
- 市町が設置する福祉の関係機関（保健センター等）
- 県が設置する福祉の関係機関（児童相談所、健康福祉センター等）
- 栃木県総合教育センターの教育相談部
- 民間の支援機関（フリースクール）
- 民間の支援機関（居場所）
- 民間の支援機関（親の会）
- 医療機関
- 実施していない
- 実施しているかどうか分からない
- その他（自由記述）

25 不登校に関して、どのような研修があるとよいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 児童生徒の心理や医療、福祉に関する研修
- 児童生徒の個別の状況に合わせた学習指導・支援に関する研修
- 児童生徒の個別の状況に合わせた生徒指導・支援に関する研修
- 児童生徒間の人間関係形成の支援に関する研修
- 児童生徒間の人間関係形成の問題の解決に関する研修
- 児童生徒との関わり方やコミュニケーションの方法等に関する研修
- 保護者との関わり方やコミュニケーションの方法等に関する研修
- 実際に不登校を経験した児童生徒、保護者の悩みに関する研修
- 特にない
- よく分からない
- その他（自由記述）

26 不登校の「未然防止」に向けて、あなた自身またはあなたの学校で取り組んでいること（取り組んだことがあること）でうまくいったことがあれば、自由に記述してください。

自由記述

27 悩みを抱える児童生徒（不登校になる前の状態）への「早期発見・早期対応」について、あなた自身またはあなたの学校で取り組んでいること（取り組んだことがあること）でうまくいったことがあれば、自由に記述してください。

自由記述

28 不登校児童生徒への「支援」に向けて、あなた自身またはあなたの学校で取り組んでいること（取り組んだことがあること）でうまくいったことがあれば、自由に記述してください。

自由記述

「学校生活における意識調査」「不登校に関する保護者の支援ニーズ等に関する調査」の結果を見て感じたことを自由にお書きください。

29 「学校生活における意識調査」結果（概要）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/seisaku/documents/ishikichousa-gaiyou.pdf>

「不登校に関する保護者の支援ニーズ等に関する調査」結果（概要）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/seisaku/documents/hogosyachousa-gaiyou.pdf>

自由記述